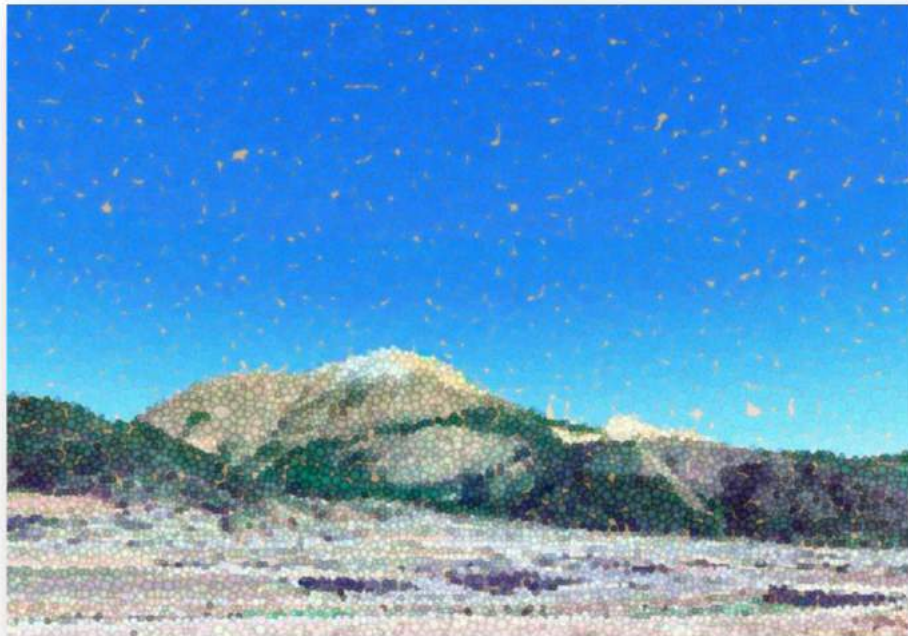


第47回 まちづくり研究セミナー

JIA建築展 vol.19・日韓合同学生ワークショップ

「風景とコミュニティのためのしなやかなデザイン」

報 告 書



2017.11

(公社)日本建築家協会 九州支部 北福岡地域会

■ 建築展19・日韓合同学生ワークショップ

期 間 2017年9月16日(土曜日)～9月18日(月曜日) ※研修施設に全員泊まり込みの合宿形式

会 場 日本文理大学 湯布院研修所
大分県由布市湯布院町川上茶屋の上3366-4

参加数 延べ人数 340 名
9月16日(土曜日) 112 名
9月17日(日曜日) 114 名
9月18日(月曜日) 114 名

講 師 JIA2016年新人賞受賞

- 栗原 健太郎 スタジオヴェロシティ 一級建築士事務所
作品名：愛知産業大学 言語・情報共育センター
- 松岡 聡 一級建築士事務所 松岡聡田村祐希
作品名：裏庭の家

参加者 大学教授 ワークショップ参加大学(発表順)

菅 雅幸	日本文理大学	釜慶大学(Aチーム)
近藤 正一	日本文理大学	九州産業大学
佐久間 治	九州工業大学	釜慶大学(Bチーム)
赤川 貴雄	北九州市立大学	釜山大学(Bチーム)
福田 展淳	北九州市立大学	東西大学(Bチーム)
益田信也	近畿大学	九州工業大学
岩下 陽一	元九州職業能力開発大学校	近畿大学
尾道 建二	元九州共立大学	北九州市立大学(Bチーム)
Yoo Jae Woo	釜山大学	東亜大学
Oh Seong Heon	東亜大学	日本文理大学
Oh Kie Whan	東西大学	東西大学(Aチーム)
Jihwa Roh	釜慶大学	北九州市立大学(Aチーム)
Hong Jung Howan	新羅大学	釜山大学(Aチーム)
		九州職業能力開発大学校

10大学14チーム (日本:6大学7チーム,韓国:4大学7チーム)

スタッフ (地域会長) 永澤 正哉
(副会長) 松島 逸人 戸村 一樹
(幹事) 三迫 靖史 熊谷 平一郎
佐久間 治 杉野 友紀
(相談役) 服巻 良樹
(建築展実行委員長) 塩釜 直人
(建築展実行副委員長) 小原 光晴
(建築展実行委員会)
浅田 典生 安東 崇夫 安東 秀夫
加藤 史衛 金子 英造 松岡 伸二
満井 輝吉



■ ワークショップ／課題説明

日 時	2017年9月16日(土曜日)	15:00～15:30
会 場	日本文理大学 湯布院研修所 7号館 食堂2階	
参 加 数	112名 (内学生84名)	
参 加 校	日本： 日本文理大学／九州工業大学／北九州市立大学／九州産業大学／近畿大学／九州職業能力開発大学 韓国： 釜山大学／東亜大学／東西大学／釜慶大学	
課題説明	栗原 健太郎 氏 (スタジオヴェロシティ 一級建築士事務所)	
テ ー マ	「風景とコミュニティのためのしなやかなデザイン」	

敷地の全体的なリノベーションの視点から、エリア全体の良い所は残して伸ばし、問題点に対しては限定的に介入する計画を期待しています。
改修に限らず、建替えや新築でもかまいません。

<分棟形式と景観を活かした計画>

湯布院は火山である由布岳(標高1,584m)の恵みを受けた豊富な湯量を誇る温泉地です。

計画地である日本文理大学湯布院研修所の敷地は、北東方向に緩やかに下る傾斜地に研修棟・食堂棟・宿泊棟・温泉棟・コテージなどが分棟で建ち並び、眼下には雄大に聳える由布岳を望むとても景観に優れた立地になっています。

各棟を移動する際に外部を体験することができる分棟形式の環境の豊かさと、施設内外で望むことのできるすばらしい景観を活かした、内部空間・外部空間のリノベーションを計画してください。

<開かれた大学施設としての計画>

大学は近年、生涯学習のニーズから公開講座が増え、地元企業と大学の共同研究による産学連携事業が行われるようになるなど、地域や社会の拠点としての機能が求められるようになってきました。

この大学研修施設が普段から大学生以外の様々な方々にも使ってもらえるような、今以上に地域と連携する施設にするためには、どのようなプログラムを付加し、どのような建築的リノベーションをおこなって運用すればよいかを考えてください。

<熊本地震被害の調査・復旧判断>

近年日本では2011年3月11日に起きた最大震度7(M9)の東日本大震災に続き、昨年2016年4月16日に起きた震度7(M7.3)の熊本地震でも多くの被害が出ました。

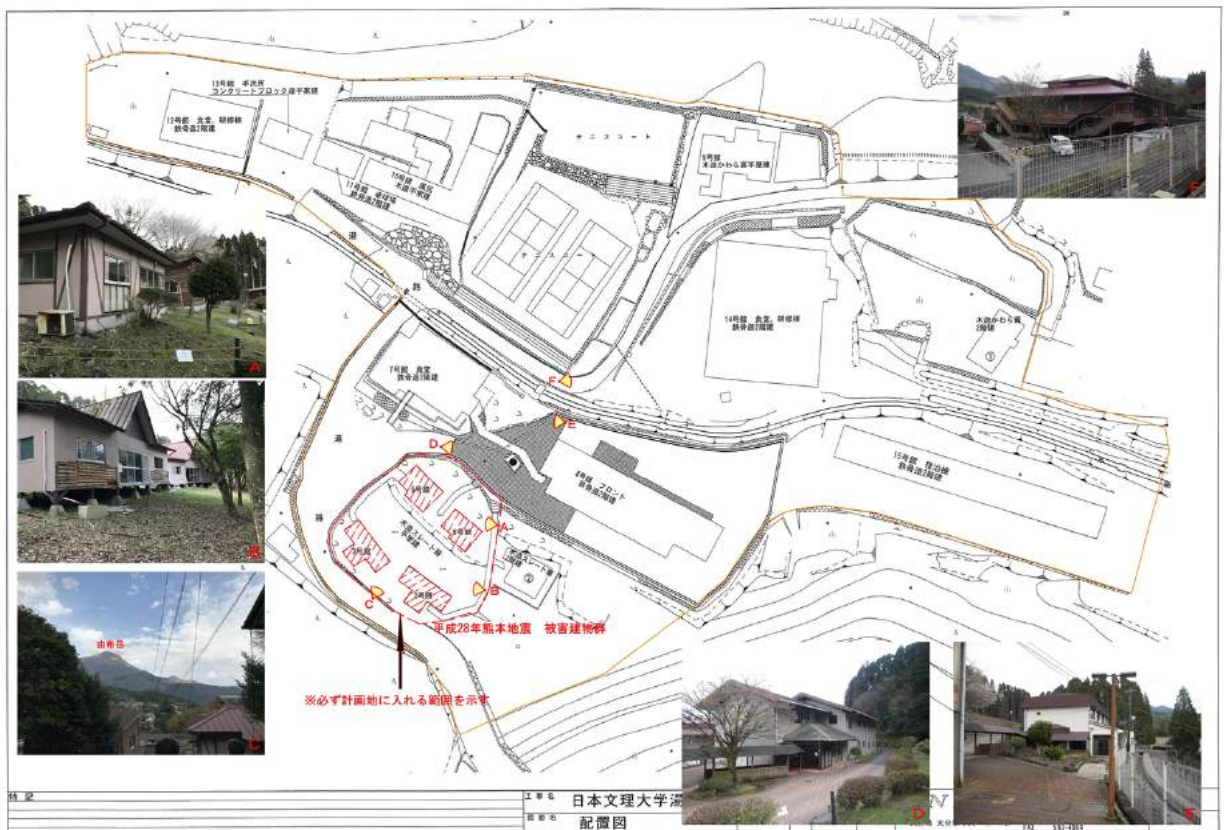
今回の計画地域である大分県由布市は震度6弱を記録し大分県内で最も大きな被害があった都市であり、計画地の「日本文理大学 湯布院研修所」もログハウスの外壁材が落下するなどの被害を受け、運用は再開されているものの、現在も当時のままの被害状況が残されている状況です。

このワークショップでは研修所で実際の地震被害状況を確認・調査するとともにその修繕や構造的補強などの復旧方法、あるいは建替えることが必要か、みなさんの考えるこの場所の再生方法を示してください。

地域の文化・風土を知り、敷地環境や既存施設の構成を知り、そこにほんの一手を加えるだけで既存環境全体に化学反応を起こすような、既成概念にとられない敷地環境のリノベーション計画を考えてください。

栗原 健太郎 松岡 聡

提出内容 セミナー意見交換：A3ペーパー、A1サイズパネル用原案等
 ワークショップ：A1サイズパネル(枚数自由)、模型、ppt等製作



■ ワークショップ／敷地歩き

日 時 2017年9月16日(土曜日) 15:35～16:00

会 場 日本文理大学 湯布院研修所 敷地内

参 加 数 112名 (内WS参加学生84名)

講 師 栗原 健太郎 氏 (スタジオヴェロシティ 一級建築士事務所)

概 要 課題説明の後、地震で被災したバンガロー4棟を全員で見学しました。栗原さんから被災状況や敷地の読み取り方などのレクチャーを受けました。韓国の学生や先生方は、特に地震で被災した建物の状況を熱心に見られていました。



■ ワークショップ／制作指導-1

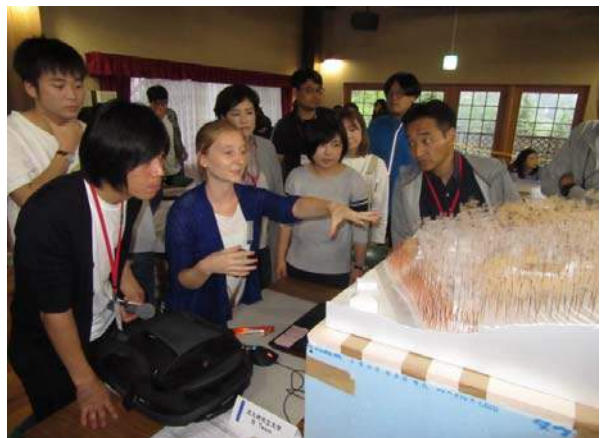
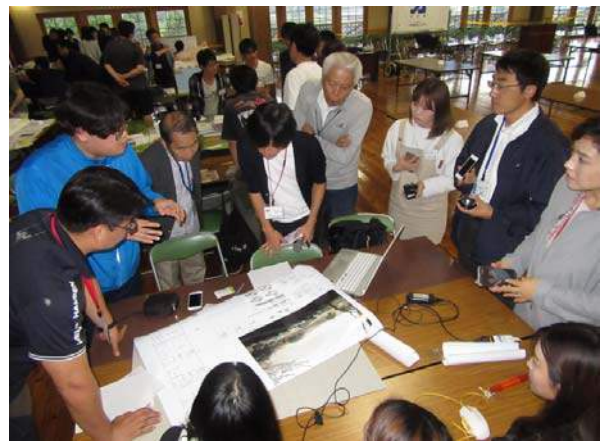
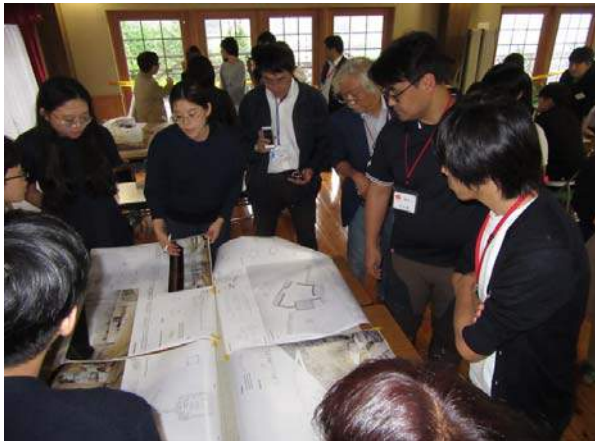
日 時 2017年9月16日(土曜日) 開会 16:10 ～ 閉会 17:00

会 場 日本文理大学 湯布院研修所 7号館 食堂2階

参加数 112名 (内学生84名)

制作指導 栗原 健太郎 氏 (スタジオヴェロシティ 一級建築士事務所)
各大学教授、JIA会員

概 要 各チームが作品のコンセプトを模型とパネルを使って、栗原先生に説明しました。
学生達は、栗原先生からアドバイスを受けて、提案を更に良くするようにみんなで話し合いをして
模型とパネルを訂正する作業を進めていました。



■ワークショップ／懇親会

日 時 2017年9月16日(土曜日) 開会 17:30 ～ 閉会 19:10

会 場 日本文理大学 湯布院研修所 7号館 食堂2階

参加数 112名 (内学生84名)

概 要 当初の企画では外でバーベキューを行う予定でしたが、生憎の台風のため食堂での食事となりました。各テーブルは大学別とせず日本と韓国の学生を混合した組み合わせとし交流を図りました。途中で、大学別の自己紹介をして、今回の意気込みなどを発表してもらいました。





■ 建築セミナー

日 時 2017年9月17日(日曜日) セミナー① 8:40～9:40 セミナー② 13:00～14:00

会 場 日本文理大学 湯布院研修所 7号館 食堂2階

参加数 114名 (内学生84名)

概 要 今回、午前と午後の2部構成でセミナーを行いました。韓国の学生が、新人賞の先生のセミナーを直接受けるのは、今回が初めてでした。お二人が受賞された作品を含め多くの作品を丁寧に紹介して頂きました。パネルを見ただけではわからないエピソードを話されるなど、学生のみならずJIA会員も熱心に聞き入っていました。

セミナー① 講師:JIA2016年新人賞受賞 栗原 健太郎 氏 (スタジオヴェロシティ 一級建築士事務所)

テーマ:「人の生活で建築が消えるとき空間が生まれる」



セミナー② 講師:JIA2016年新人賞受賞 松岡 聡 氏 (一級建築士事務所 松岡聡田村祐希)

テーマ:「敷地をつくる」



■ ワークショップ／制作指導-2

日 時 2017年9月17日(日曜日) 開会 14:00 ～ 閉会 18:30

会 場 日本文理大学 湯布院研修所 7号館 食堂2階

参加数 114名 (内学生84名)

制作指導 栗原 健太郎 氏 (スタジオヴェロシティ 一級建築士事務所)
松岡 聡 氏 (一級建築士事務所 松岡聡田村祐希)
各大学教授、JIA会員

概 要 2日目から参加の松岡さんを加え、栗原さんとお二人で熱心に学生達を指導して頂きました。
お二人の違った切り口での指導に、学生達は夜眠ることなく作業におわれることになりました。



■ ワークショップ／懇親会

日 時 2017年9月17日(日曜日) 開会 19:00 ～ 閉会 20:30

会 場 日本文理大学 湯布院研修所 食堂1階

参加者 講師 栗原 健太郎 松岡 聡
 教授 菅 雅幸 近藤 正一 赤川 貴雄 福田 展淳
 佐久間 治 尾道 建二 岩下 陽一
 Yoo Jae Woo Oh Kie Whan Oh Seong Heon
 Jihwa Roh Hong Jung Howan
 JIA会員 北福岡地域会、大分地域会(小田 健)

概 要 お二人の講師そして日本と韓国の先生方を囲み、JIAの会員との交流を深めました。



■ ワークショップ／クリティーク

日 時 2017年9月18日(月曜日) 開会 8:30 ～ 閉会 14:10

会 場 日本文理大学 湯布院研修所 7号館 食堂2階

参 加 数 114名 (内WS参加学生84名)

講 評 栗原 健太郎 氏 (スタジオヴェロシティ 一級建築士事務所)
松岡 聡 氏 (一級建築士事務所 松岡聡田村祐希)
各大学教授、JIA会員

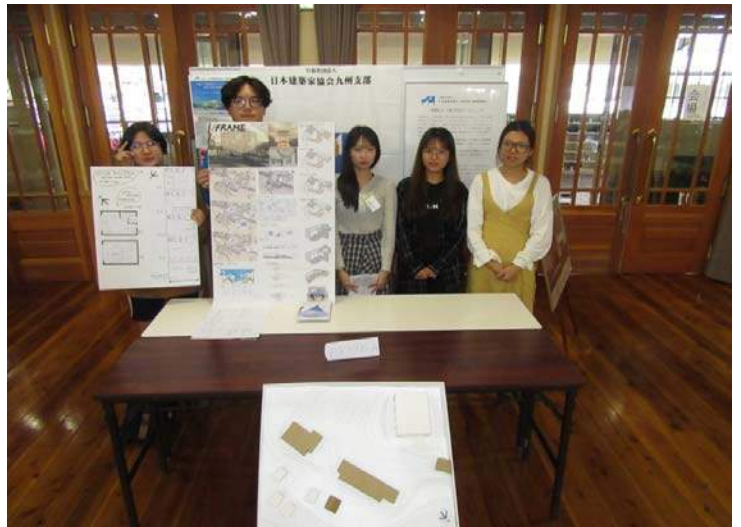
概 要 14チームの作品の発表とクリティークが4時間にわたり行われました。プレゼンテーション3分(通訳+3分)という短い時間の中、学生達は作品への思いを最後まで熱く伝えました。その結果、栗原賞、松岡賞、まちづくり研究セミナー賞、JIA賞が、4チームに贈られました。



■ 提案作品(発表順)

① 釜慶大学 Aチーム

担当教授：JIHWA ROH
 参加者：KIM JINTAE
 PARK JIYEON
 HAN SUJIN
 JEONG EUNJI
 SIN HAEWON



■ テーマ：FRAME

私たちは、この敷地が持つ豊かな自然環境や素晴らしい眺望を活かし施設の魅力を高めること、各建物の多様性と強靭さを高めることを目的として、フレーム「FRAME」というコンセプトで提案を作成しました。

敷地全体としては、地元や大学の方々と来訪者の動線を分析し、眺望が開ける位置にパビリオンを計画しました。

これらパビリオンは集会など様々に利用できるベンチが備わり、眺望を切り取るフレームとなる壁と一体となっています。

各建物は、外皮内面にトラスのフレーム(メガストラクチャー)を設けることで耐震性を高めながら、そのフレームにブリーを設置して部屋や本棚などのユニットを吊る構成とすることで、位置の変化が空間の多様性を高める計画としました。

【栗原先生】プレゼンテーションがとても良くできていると思います。フレームについては、本棚等より具体的な空間の例を示すほうが、何を切り取っていてどういう効果が得られるのかが分かりやすくなって良いと思います。



■ 提案作品(発表順)

② 九州産業大学

担当教授：矢作 昌生

参加者：小澤 成美 脇 隼人
 戸上 夏希 松石 和也
 平安 茜音 上原 諒太郎
 清水 史子 山本 彩菜
 村上 優太 田所 佑哉

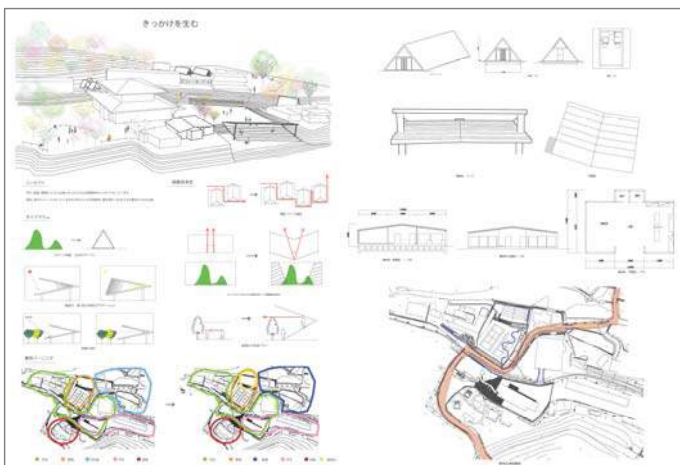


■ テーマ：きっかけを生む

施設の問題点として、保養所として様々な人達(家族・学生団体・その他団体等)が利用しているにも関わらず、利用者間に交流がない事が挙げられます。また、近隣に住居が多数あるにも関わらず地域との交流も現状ありません。

提案として、敷地に遊歩道を整備して休憩所を設ける事により、そこに様々な人達を誘い、交流のきっかけを作りたい。休憩所は、由布岳を一望出来る広場を経由し、蹠り口を模した開口を通る事により、景色の変化を楽しめるよう工夫した。遊歩道に沿ったクネリのある手摺を設置して、行先を誘導するアイデアは素晴らしく感じる。

【栗原先生】 模型での感じでは手摺の材料が不明(スチール?木?)ですが、材質によって印象も変わるので、材の情報を最初から検討して設計を進めると良い。



■ 提案作品(発表順)

③ 釜慶大学 Bチーム

担当教授 : JIHWAN ROH
 参加者 : YUN SEUNGHYUN
 MOON JUEUN
 JEONG KEUNYOUNG
 KIM GEOCHANG
 LIM HONGGI
 PARK JUNGWON
 CHOI MINSEUNG

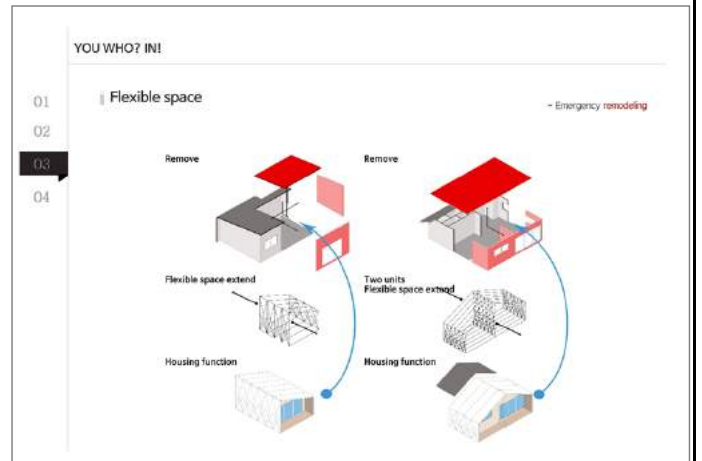
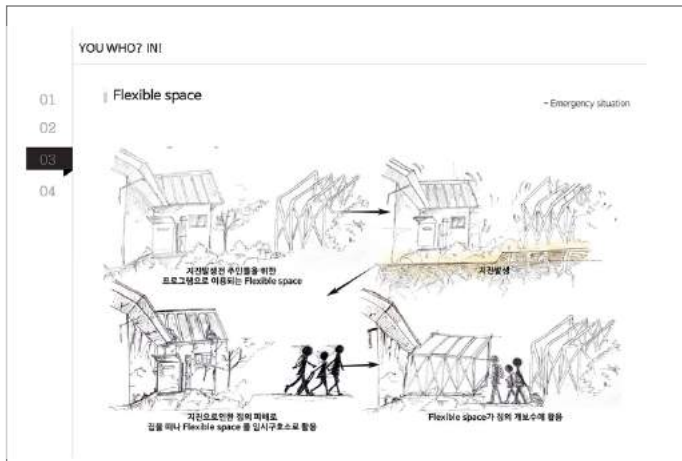


■ テーマ : YOU WHO? IN!

私たちは、敷地内から外への景観は豊かだが、一方で内から内、内部の景観が豊かではないという課題を抽出しました。この「内部景観を豊かにする」ことを、既存建物群の機能を再配置することによって実現するよう計画しました。具体的には、空きスペースにフレキシブルな器となる建築を作り、既存建物群から機能を分離して再配置する計画です。器には、コアを有し可変する「フレキシブルスペース」という建築ユニットを考えました。災害時にも活用できます。このフレキシブルスペースが、村から都市へ、更に社会へと拡大するプラットフォームとなる提案としました。

【松岡先生】 可変の部分、広場に対して伸縮する仕掛けが面白いと思います。内から内への景観に作用する具体的な提案が見られると、より良かったと思います。

【栗原先生】 フレキシブルスペースのユニットが配置されることによって各建物がつながり合う点が良いと思います。



■ 提案作品(発表順)

④ 釜山大学 Bチーム

【栗原賞】

担当教授 : Yoo Jae Woo
 参加者 : KIM BYUNG JIN
 LEE JIN SEUL
 BAE JU HYUN
 KIM YE IN
 Kim Jayeong
 LEE HYEONJI



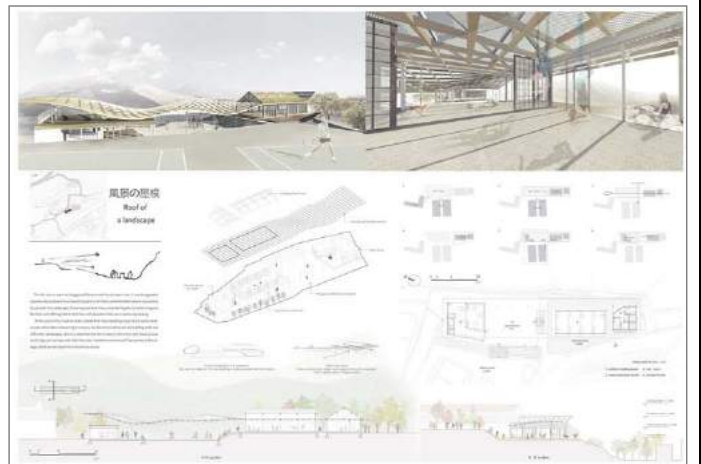
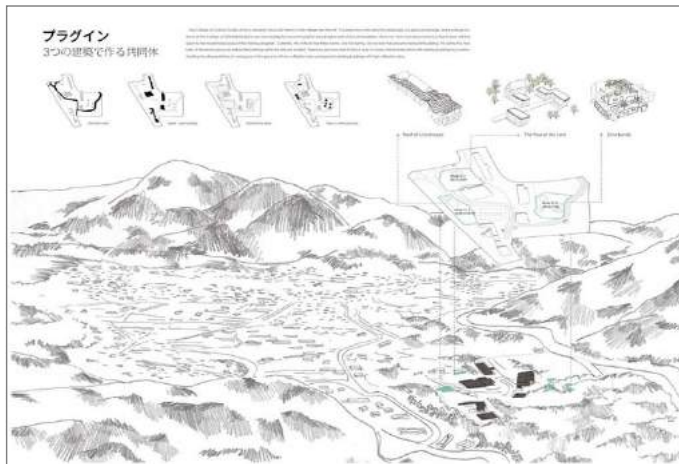
■ テーマ : プラグイン ~3つの建築が作る共同体~

着目したのは、現在の敷地の高低差、開発された土地の形状、既存の建物の配置、機能の関係でした。敷地の中で利用されていない空間に意味を持たせ、融合・変化を起こす仕掛けをし、新たな敷地利用を計画することにしました。

状況を整理し、敷地と既存の建物の特徴を生かした3つの領域を核に、リノベーションを試みることにしました。

1つ目は帯状のもので囲い領域を作るものです。独立した既存のログハウスを立体的にまとめて壁で囲い、そこに出来たスペースに研修機能を拡張しました。2つ目は庭を作り人々の流れるような交流・憩いの領域を作るものです。既存の食堂棟の横に接続し、図書館機能をベースとしたオープンスペースを付与しました。3つ目は眺めの良い開かれた大空間を作るものです。テニスコートに屋根をかけ、インドアでスポーツやコンサートを楽しむスペースを拡張しました。

【松岡先生】 3つの領域の関係性に着目し、それぞれをつなぐ融合が考えられれば、より良くなると感じました。



■ 提案作品(発表順)

⑤ 東西大学 Bチーム

担当教授 : Oh Kie Whan
 参加者 : Park Jin Kim Min Jun
 You Hea Lyn
 Kim Hyo
 Na Ju Yong
 Choi Eun Ji
 Kong Min A



■ テーマ : 4 Seasons, 4 Scenes

自然豊かな由布の地域性からヒントを得て、四季の移ろいの場面構成を建築的構成の主軸に据えました。当地で起きた地震の記憶を繋ぐために、建物のフレームだけを残して休憩所のモニュメントとして使用することにしました。次に4つの季節ごとに自然の豊かさを感じられる美しい庭園を演出しました。中央の建物は、屋内運動場、図書館パブリック空間を内包していて、各シーンごとに四季を演出することで、映画の中にあるような舞台装置を創造しました。

【栗原先生】 メインの建物へのアプローチをいかに演出するかに腐心したそうですね。「4つの季節、4つの場面」の当初にできたデザインと、アプローチをつなぐ動線のデザインの統一が図られるととっても良かったと思います。

【松岡先生】 四季の変化を意図的に演出する構成を考えたとところが、魅力だと思います。建物だけに終始することなく敷地周辺の風景をどのように取り込み、また見晴らしを良くするかを追求すればより良い計画となるでしょう。



■ 提案作品(発表順)

⑥ 九州工業大学

【松岡賞】

担当教授：佐久間 治

参加者：松山 裕生 中濱 敦子
 大村 美波 石川 龍
 西田 淳 池尻 賢矢
 神薊 亘 井藁 大希



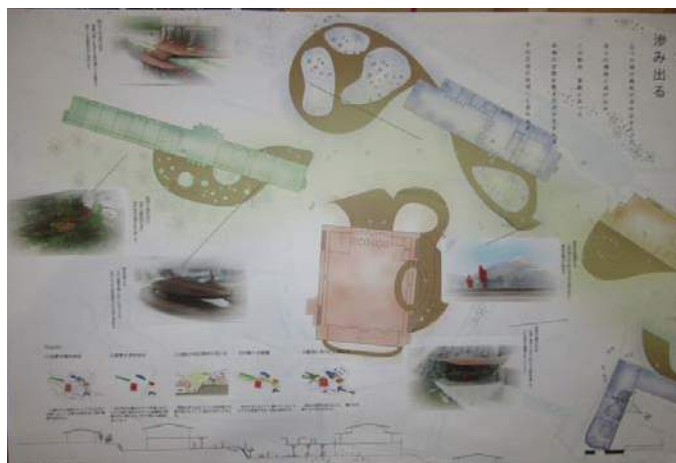
■ テーマ：要素の滲ませることで新たな分棟形式を形成する。

既存の研修施設の中から、中央付近の4棟を抽出。

各々、自己完結している棟に、研修所全体の機能や魅力が広がり、相互連結を図れるように手を加え(リノベーション)る提案。各々の棟の外壁に、その棟の機能が完結せず、拡張出来るような新たな開口部や他棟との連続性を持てるように、キャンチレバー形式のスラブによる縁側を新設し、各々を回遊できるブリッジで繋ぐ。

それにより、各々の棟の特徴がより活かされること、その回遊式の縁側により、景色の変化や接点の多様化による豊かさを色々なシミュレーション結果を交えて、提案した。

学生のみで完結するコミュニティから、地域住民や利用する家族等、広く社会との交流の機会を提供する事が可能になり、今後の時代にあった提案として説得力のある物であり、模型やパネル等のプレゼンテーションの完成度も高い物だった。



■ 提案作品(発表順)

⑦ 近畿大学

担当教授：益田 信也

参加者：真弓 静七 福田 菜々子
樋口 葵 佐々木 祐輔
大石 妃奈乃 米田 直樹



■ テーマ：眺望を生かした空間

研修所の入口にある被災したバンガローの敷地には、新たに展望デッキを設け由布岳を眺望できる空間を作り出した。管理・宿泊・研修棟(8号館)をエントランスと大ホール、小ホールに改築し、距離のあった8号館、14号館、15号館を行き来しやすくするためにウッドデッキでつなぎ、人が自然と集まる空間としました。

- 【栗原先生】フラットな屋根に交換する発想はおもしろいと思います。ウッドデッキが3つの建物を繋ぐ空間として機能し交流が生まれると思います。ホールを稜線に沿って配置するとどういった並びが良いか更に具体的になるでしょう。
- 【松岡先生】既存の屋根を撤去し新設するだけで、理にかなったリーズナブルで十分な変化をもたらすことができ良かったです。気になるのが眺望を生かす考えなのに、大きな屋根が眺望をブロックしているので少し右にずらす工夫があった方が良かったです。また、展望台に行くまでに、いろいろな場所をもう少し作れそうな気がしました。

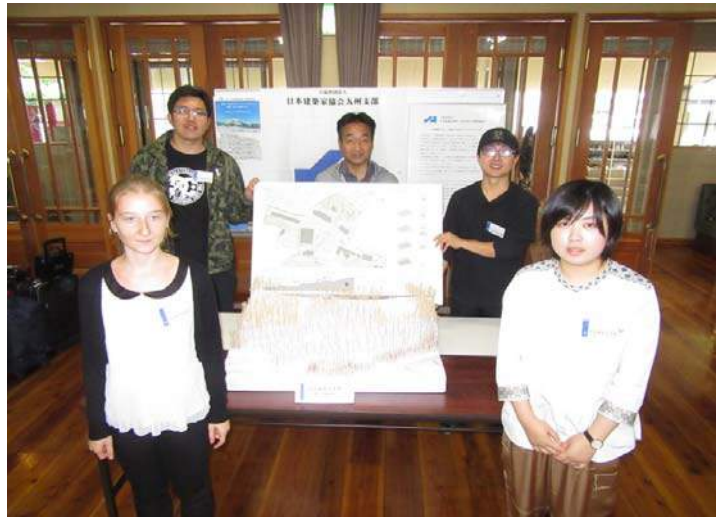


■ 提案作品(発表順)

⑧ 北九州市立大学 Bチーム

【まちづくり研究セミナー賞】

担当教授：福田 展淳
 参加者：張立
 ボリス ボゴシェヴィイ イリナ
 藤田 桃子
 タン ヨウ



■ テーマ：連続する森

対象敷地にグリッド状に覆い統一感のあるランドスケープを目指す。周辺の杉の木を活かし格子状に新たに配置した森を創出する。木々の間に夜明りが灯るインスタレーションを形成する。木々の間を人々が行き交う素晴らしい空間を目指す。又、地域の竹を吊り下げ、内側に統一感を持たせる。この森はやがて木々が育ち周辺の森と一体となり自然の森となる。木々の間にはネットが張られ美しい景観を形成し、地元の竹キャンピーは人々の活動を誘引する場所となることを目指す。

【コメント】 森の中に新たな森を目指す理由が中々理解できません。しかし、地元の素材を活用して何かを目指す方向性はとても良いことだと思います。新たな森と人々の繋がりや、関係性が読み取りにくいのもっと具体的な関係性を提案するともっと素晴らしい提案になるとと思います。



■ 提案作品(発表順)

⑨ 東亜大学

担当教授 : Oh Seong Heon
 参加者 : CHO SANG HYUN
 KIM YEO YOUNG
 MOON JUN HYUK
 MUN JUN HUI
 LEE YEON KYUNG
 PARK HAE MIN



■ テーマ : 歩くこと

地域に開いた色々な体験ができる施設を計画しました。

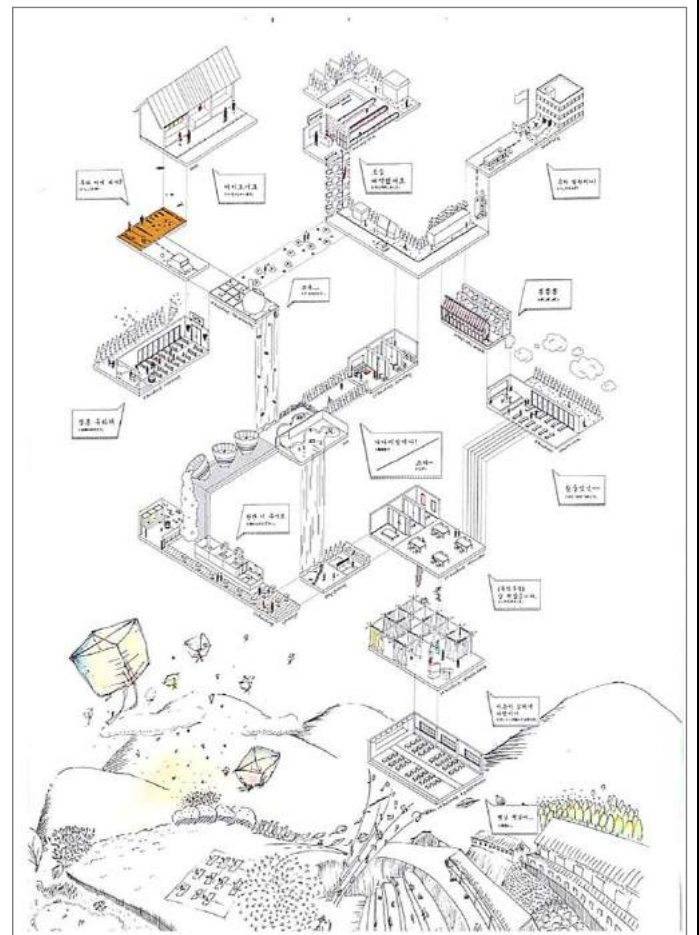
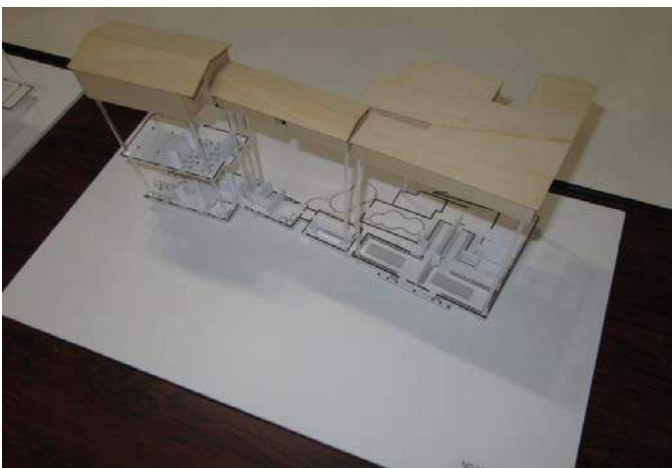
ログハウスは3つのタイプで民泊の施設とし、15号館は仕切りを無くして多目的ホール、12号館は温泉と繋げて酒造りの体験できる施設にし、地域住民が運営する収益施設として活用できるものにします。

このダイアグラムは、地域住民、観光客、学生が交わり、体験や交流を経て地域発展や自己開発すること表しています。

【松岡先生】 このダイアグラムはとても分かりやすく面白くていい。

ただ、企画説明用になってるので、配置図に記号やサインを使って、利用者に判りやすくした方が良かった。

【栗原先生】 ダイアグラムには人やモノ、音楽やアクティビティとか環境の状況が事細かく書き込まれているのに、図面になると一切無くなっている。プレゼン用なんだから、図面感を残しながら環境を示してあげると判りやすくなる。



■ 提案作品(発表順)

⑩ 日本文理大学

担当教授：菅 雅幸

参加者：山下 竜平 渡邊 麟
 齊藤 佑己 蓮井 百音
 上杉 亮太 調 菜月
 安達 望美 下地 奈結花
 安里 美月



■ テーマ：しきがみせる表情

地震により被災したコテージを取り壊し、コミュニケーションを促す建築を創ることを考えました。そのプランは大切なものを包み込む2つの手の形をモチーフとしています。ここでは、足湯、憩い、休む、眺める、等の行為が四季を感じながら行なわれることで人々のコミュニケーションを促しています。また、四方には四季を感じるさくら、ケヤキ、もみじ、モミの4種類の木が配されています。人々は木々の色、形、匂い等の風情でせんに四季やその移ろいを感じることであります。

【コメント】 高低差をうまく使い、四季を感じる爽やかなコミュニケーションの場を創ることは素直でよい着想である。ただ、4種の木と建築との関係性(強弱)や、敷地全体との関わり等は深く考えておくべきところではないか。又、この案に特化するならば場の特性に応じた細やかさや配慮がほしい。この地は中心部への導入部でもある。ここに、無表情で高く続く壁は相応しくない。奥への期待を感じさせるようなかたち、設えが必要などところだと思う。



■ 提案作品(発表順)

⑪ 東西大学 Aチーム

【JIA賞】

担当教授：Oh Kie Whan
 参加者：Park Ga Yeon Lim Hye Jin
 Yu Ho Sung
 Kim Ju Young
 Ahn So Yeon
 Lee Sang Jun
 Kang Tae Seak



■ テーマ：坂に登って眺める ～由布市を包んだ由布坂～

湯布院研修所は美しい自然が楽しめる場所である一方、'研修所'という限定的な用途のため利用者が限定的です。私達は、体育館施設を中心に据えて多様な人が訪れることができる機能とし、他方広場は由布岳の展望と、運動など多目的に利用可能な空間を提案します。ここでは、様々な活動を受け入れる場所となることで、場所の可能性は広がり、そこで生まれたコミュニケーションがさらに新たな利用者との出会いを生んでいく。

【栗原先生】 運動、講義、公演、待避所など複数の利用形態を提案しつつも、展望にフォーカスして構成しているのは清々しく気持ちいい。周辺施設についても展望をキーワードに展開していくとさらに面白くなりそうです。

【松岡先生】 由布岳を眺めるこの施設はとても魅力的です。この地域の風景を楽しむ仕掛けを、ここに至るアプローチでも連続的に演出できるとより魅力あるプランに発展していきそうです。



■ 提案作品(発表順)

⑫ 北九州市立大学 Aチーム

担当教授：赤川 貴雄
 参加者：清水 伶
 小澤 夏美
 室元 美咲



■ テーマ：居場所「地域の人と研修所利用者のためのサードプレイス」

研修所の利用者が研修以外の時間をリラックスして過ごせる場、観光客で賑わっている街とは対照的に、自然豊かな環境の中で地域の人のがのんびりと過ごせる場を提供し、都会の人と地元の人達が世代を超えて交流できる場を作り出すことを目的としている。

対象敷地の特色として「景観」・「分棟」・「高齢者」のキーワードをあげ、分棟形式の施設を遊歩道でつなぎ様々な景観を楽しみながら研修者と地域の高齢者の交流が出来る空間創りを目指している。

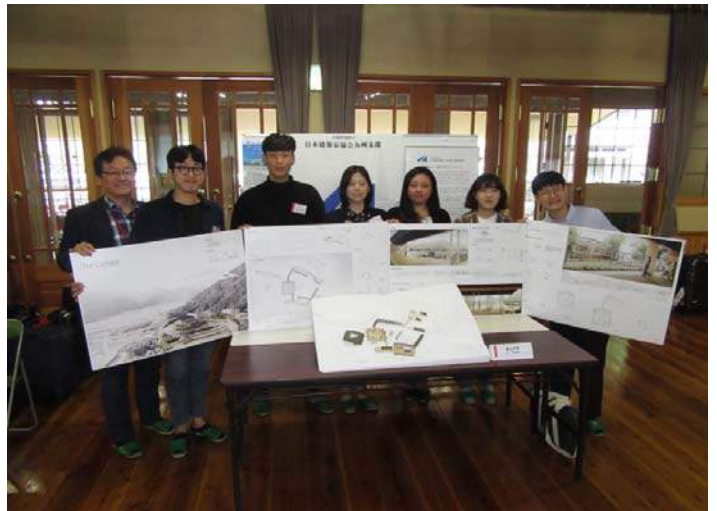
仕掛けとして、分散した棟の繋がりを作るためにデッキを設けて敷地内を流れる水路と絡ませることにより様々な人々の出会いの場を演出している。



■ 提案作品(発表順)

⑬ 釜山大学 Aチーム

担当教授 : Yoo Jae Woo
 参加者 : KONG DO YOUNG
 KANG MIN KYEONG
 CHOI HEE SEUNG
 SON JEONG WOO
 BAE JU HYUN
 Kim Jayeong



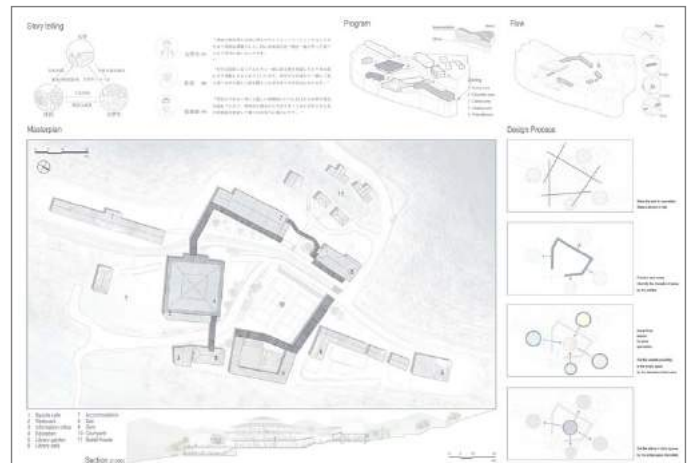
■ テーマ : また、森へ行く道

森と敷地と景観の調和を念頭に、既存の道と連携する新たな回廊を設けることで動線と空間の改造を試みました。計画敷地はかつて森に行く道でありました。それが現在は大学研修施設となっています。この経過に着想し、計画として、再度、村人に開かれることも目的とした回廊を計画しました。

回廊は、プログラム、村人と森、大学生と村人、それぞれの連結を誘導するようにしました。どのように、この空間が村人たちとの関係を結ぶか想像しながら、場面を考えていきました。

場面として、時としてジグザグに、時として壁のある閉じた空間に変わり、外部空間を取り入れながら展開していきます。空間に流れを生み出し、回廊で囲まれた中心空間への接続を容易にし、各領域の連結、人々の交流を図りました。

【栗原先生】 高さの低いヒューマンスケールを生かした回廊が面白い空間演出をしていて、良いと感じました。

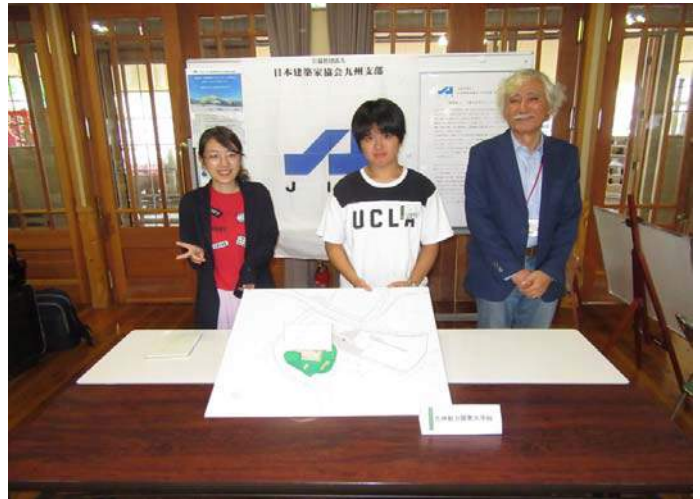


■ 提案作品(発表順)

⑭ 九州職業能力開発大学校

担当教授：岩下 陽市

参加者：大塚 有華
入濱 葵



■ テーマ：風景とコミュニティのためのしなやかなデザイン

コンセプトは、厚生な研究所を目指し、健康で豊かにすると言う事を目標に、近年のうつ病、育児ノイローゼその他の精神疾患等が、老若男女問わず非日常の世界に滞在される事で、元気になるように湯布院の夜の表情に注目して、建物を考えました。1階部分は子供たちの遊び場として親子で楽しめる空間として、2階部分は大人たちも静かに、読書ができる、図書館として、3階は雨の日でも夜空が見れるプラネタリウム、4階は静寂な星空を見るための展望室を配置しました。

【松岡先生】 もう少し踏み込んで考えていくと、もっとおもしろい作品になったと思います。

【栗原先生】 誰でも入れる星空に特化した体験空間になって面白いと思います。

